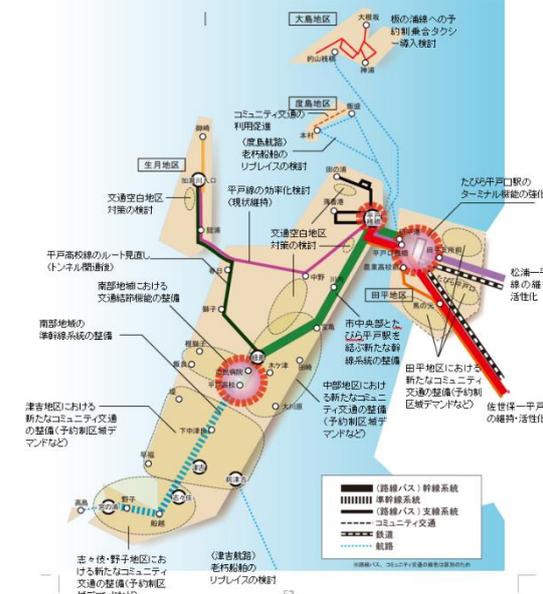


平戸市地域公共交通網形成計画 新旧対照表

	旧	新																																																										
53		<p>「図表 7-5 将来の平戸市公共交通ネットワークと主な施策」中、紐差-宮の浦線に係る補助系統の位置付け・役割等を追加。</p> 																																																										
54	<p>「図表 7-6 計画目標」中、「⑤幹線系統ネットワークとコミュニティ交通ネットワークを結ぶ支線ネットワークの形成」を追加</p> <table border="1" data-bbox="231 1265 813 1780"> <thead> <tr> <th>基本方針</th> <th>成果指標</th> <th>現状</th> <th>目標 (平成36年) 2024年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①市内外の広域移動を支える幹線系統ネットワークの形成</td> <td>ア) 佐世保-平戸線(路線バス)の平戸桟橋での乗者数</td> <td>13,350人 (H29)</td> <td>13,700人</td> </tr> <tr> <td>②身近な生活を支えるコミュニティ交通ネットワークの形成</td> <td>イ) 地域主体の新交通システム導入数</td> <td>2地区 (H30現在)</td> <td>4地区</td> </tr> <tr> <td>③離島と本土を安全で快適に結ぶ海上交通ネットワークの形成</td> <td>ウ) 定期航路利用者数</td> <td>182,295.5人 (H29)</td> <td>156,000人</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">④持続可能な運営のための利用促進策の導入と意識啓発</td> <td>エ) 利用促進事業数</td> <td>1事業 (H30)</td> <td>3事業</td> </tr> <tr> <td>オ) コミュニティ交通の利用促進</td> <td>度島コミュニティ交通の1便当たり利用者数 (H29) 志々伎コミュニティ交通(予約制)の稼働率 (H29)</td> <td>2.6人/便 (H29) 46.7% (H29)</td> <td>2.6人/便 46.7%</td> </tr> <tr> <td>カ) 高校生の通学における公共交通利用率(アンケート調査結果)</td> <td>53.8%^{※1} (H29)</td> <td>55%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 往路、復路の単純平均値。 ※2: 路線バスの利便性について「便利」、「どちらかといえば便利」、「普通」の合計。</p>	基本方針	成果指標	現状	目標 (平成36年) 2024年	①市内外の広域移動を支える幹線系統ネットワークの形成	ア) 佐世保-平戸線(路線バス)の平戸桟橋での乗者数	13,350人 (H29)	13,700人	②身近な生活を支えるコミュニティ交通ネットワークの形成	イ) 地域主体の新交通システム導入数	2地区 (H30現在)	4地区	③離島と本土を安全で快適に結ぶ海上交通ネットワークの形成	ウ) 定期航路利用者数	182,295.5人 (H29)	156,000人	④持続可能な運営のための利用促進策の導入と意識啓発	エ) 利用促進事業数	1事業 (H30)	3事業	オ) コミュニティ交通の利用促進	度島コミュニティ交通の1便当たり利用者数 (H29) 志々伎コミュニティ交通(予約制)の稼働率 (H29)	2.6人/便 (H29) 46.7% (H29)	2.6人/便 46.7%	カ) 高校生の通学における公共交通利用率(アンケート調査結果)	53.8% ^{※1} (H29)	55%	<p>「図表 7-6 計画目標」中、「⑤幹線系統ネットワークとコミュニティ交通ネットワークを結ぶ支線ネットワークの形成」を追加</p> <table border="1" data-bbox="837 1265 1444 1892"> <thead> <tr> <th>基本方針</th> <th>成果指標</th> <th>現状</th> <th>目標 (平成36年) 2024年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①市内外の広域移動を支える幹線系統ネットワークの形成</td> <td>ア) 佐世保-平戸線(路線バス)の平戸桟橋での乗者数</td> <td>13,350人 (H29)</td> <td>13,700人</td> </tr> <tr> <td>②身近な生活を支えるコミュニティ交通ネットワークの形成</td> <td>イ) 地域主体の新交通システム導入数</td> <td>2地区 (H30現在)</td> <td>4地区</td> </tr> <tr> <td>③離島と本土を安全で快適に結ぶ海上交通ネットワークの形成</td> <td>ウ) 定期航路利用者数</td> <td>182,295.5人 (H29)</td> <td>156,000人</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">④持続可能な運営のための利用促進策の導入と意識啓発</td> <td>エ) 利用促進事業数</td> <td>1事業 (H30)</td> <td>3事業</td> </tr> <tr> <td>オ) コミュニティ交通の利用促進</td> <td>度島コミュニティ交通の1便当たり利用者数 (H29) 志々伎コミュニティ交通(予約制)の稼働率 (H29)</td> <td>2.6人/便 (H29) 46.7% (H29)</td> <td>2.6人/便 46.7%</td> </tr> <tr> <td>カ) 高校生の通学における公共交通利用率(アンケート調査結果)</td> <td>53.8%^{※1} (H29)</td> <td>55%</td> </tr> <tr> <td>⑤幹線系統ネットワークとコミュニティ交通ネットワークを結ぶ支線ネットワークの形成</td> <td>市ふれあいバス(紐差-宮の浦線)利用者数 ※3</td> <td>22,289人/年 (R5)</td> <td>22,500人/年 (R6)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 往路、復路の単純平均値。 ※2: 路線バスの利便性について「便利」、「どちらかといえば便利」、「普通」の合計。 ※3: データ取得方法はバス事業者保有の乗降データにより毎年計測。</p>	基本方針	成果指標	現状	目標 (平成36年) 2024年	①市内外の広域移動を支える幹線系統ネットワークの形成	ア) 佐世保-平戸線(路線バス)の平戸桟橋での乗者数	13,350人 (H29)	13,700人	②身近な生活を支えるコミュニティ交通ネットワークの形成	イ) 地域主体の新交通システム導入数	2地区 (H30現在)	4地区	③離島と本土を安全で快適に結ぶ海上交通ネットワークの形成	ウ) 定期航路利用者数	182,295.5人 (H29)	156,000人	④持続可能な運営のための利用促進策の導入と意識啓発	エ) 利用促進事業数	1事業 (H30)	3事業	オ) コミュニティ交通の利用促進	度島コミュニティ交通の1便当たり利用者数 (H29) 志々伎コミュニティ交通(予約制)の稼働率 (H29)	2.6人/便 (H29) 46.7% (H29)	2.6人/便 46.7%	カ) 高校生の通学における公共交通利用率(アンケート調査結果)	53.8% ^{※1} (H29)	55%	⑤幹線系統ネットワークとコミュニティ交通ネットワークを結ぶ支線ネットワークの形成	市ふれあいバス(紐差-宮の浦線)利用者数 ※3	22,289人/年 (R5)	22,500人/年 (R6)
基本方針	成果指標	現状	目標 (平成36年) 2024年																																																									
①市内外の広域移動を支える幹線系統ネットワークの形成	ア) 佐世保-平戸線(路線バス)の平戸桟橋での乗者数	13,350人 (H29)	13,700人																																																									
②身近な生活を支えるコミュニティ交通ネットワークの形成	イ) 地域主体の新交通システム導入数	2地区 (H30現在)	4地区																																																									
③離島と本土を安全で快適に結ぶ海上交通ネットワークの形成	ウ) 定期航路利用者数	182,295.5人 (H29)	156,000人																																																									
④持続可能な運営のための利用促進策の導入と意識啓発	エ) 利用促進事業数	1事業 (H30)	3事業																																																									
	オ) コミュニティ交通の利用促進	度島コミュニティ交通の1便当たり利用者数 (H29) 志々伎コミュニティ交通(予約制)の稼働率 (H29)	2.6人/便 (H29) 46.7% (H29)	2.6人/便 46.7%																																																								
	カ) 高校生の通学における公共交通利用率(アンケート調査結果)	53.8% ^{※1} (H29)	55%																																																									
基本方針	成果指標	現状	目標 (平成36年) 2024年																																																									
①市内外の広域移動を支える幹線系統ネットワークの形成	ア) 佐世保-平戸線(路線バス)の平戸桟橋での乗者数	13,350人 (H29)	13,700人																																																									
②身近な生活を支えるコミュニティ交通ネットワークの形成	イ) 地域主体の新交通システム導入数	2地区 (H30現在)	4地区																																																									
③離島と本土を安全で快適に結ぶ海上交通ネットワークの形成	ウ) 定期航路利用者数	182,295.5人 (H29)	156,000人																																																									
④持続可能な運営のための利用促進策の導入と意識啓発	エ) 利用促進事業数	1事業 (H30)	3事業																																																									
	オ) コミュニティ交通の利用促進	度島コミュニティ交通の1便当たり利用者数 (H29) 志々伎コミュニティ交通(予約制)の稼働率 (H29)	2.6人/便 (H29) 46.7% (H29)	2.6人/便 46.7%																																																								
	カ) 高校生の通学における公共交通利用率(アンケート調査結果)	53.8% ^{※1} (H29)	55%																																																									
⑤幹線系統ネットワークとコミュニティ交通ネットワークを結ぶ支線ネットワークの形成	市ふれあいバス(紐差-宮の浦線)利用者数 ※3	22,289人/年 (R5)	22,500人/年 (R6)																																																									

平戸市地域公共交通網形成計画 新旧対照表

	旧	新																								
59 ～ 60	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="margin: 0;">①南部支線系統の新設</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center;">事業概要</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>たひら</u>平戸駅ー平戸中部（紐差）を結ぶ新たな幹線系統の整備にあわせ、南部の準幹線的な役割を担う支線系統を整備する。 ・ 運行区間は宮の浦ー紐差とし、バス車両を利用した定期運行を基本に運行体系を検討する。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">対象路線</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 志々伎線 ・ 宮の浦線 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">実施主体</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交通事業者 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">実施行程</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 31 年度：詳細検討・準備（再編事業の適用を含めた検討） ・ 平成 32 年度～：実施、点検評価・見直し </td> </tr> </table>  </div>	事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>たひら</u>平戸駅ー平戸中部（紐差）を結ぶ新たな幹線系統の整備にあわせ、南部の準幹線的な役割を担う支線系統を整備する。 ・ 運行区間は宮の浦ー紐差とし、バス車両を利用した定期運行を基本に運行体系を検討する。 	対象路線	<ul style="list-style-type: none"> ・ 志々伎線 ・ 宮の浦線 	実施主体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通事業者 	実施行程	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 31 年度：詳細検討・準備（再編事業の適用を含めた検討） ・ 平成 32 年度～：実施、点検評価・見直し 	<p>「①南部支線系統の新設」中、「必要性」、「事業許可区分」、「運行態様」および「補助事業活用」を追加。</p> <p>また、「実施主体」を交通事業者から平戸市（運行は交通事業者に委託）へ修正。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="margin: 0;">①南部支線系統の新設</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center;">事業概要</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>たひら</u>平戸駅ー平戸中部（紐差）を結ぶ新たな幹線系統の整備にあわせ、南部の準幹線的な役割を担う支線系統を整備する。 ・ 運行区間は宮の浦ー紐差とし、バス車両を利用した定期運行を基本に運行体系を検討する。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">必要性</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当該路線は南部地区住民の通学をはじめ、通院や買い物など多様な目的での移動を担う。起点の紐差バス停～経由地の平戸高校前バス停では、地域間幹線系統に接続し、公共交通ネットワークを構築する上で重要な役割を担っている。一方で市の運営だけでは路線の維持が困難であることから、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">対象路線</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 志々伎 ・ 宮の浦線 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">実施主体</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平戸市（運行は交通事業者に委託） </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">事業許可区分</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自家用有償旅客運送 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">運行態様</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 路線定期運行 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">補助事業活用</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ フィーダー補助 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">実施行程</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 31 年度：詳細検討・準備（再編事業の適用を含めた検討） ・ 平成 32 年度～：実施、点検評価・見直し </td> </tr> </table>  </div>	事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>たひら</u>平戸駅ー平戸中部（紐差）を結ぶ新たな幹線系統の整備にあわせ、南部の準幹線的な役割を担う支線系統を整備する。 ・ 運行区間は宮の浦ー紐差とし、バス車両を利用した定期運行を基本に運行体系を検討する。 	必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該路線は南部地区住民の通学をはじめ、通院や買い物など多様な目的での移動を担う。起点の紐差バス停～経由地の平戸高校前バス停では、地域間幹線系統に接続し、公共交通ネットワークを構築する上で重要な役割を担っている。一方で市の運営だけでは路線の維持が困難であることから、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。 	対象路線	<ul style="list-style-type: none"> ・ 志々伎 ・ 宮の浦線 	実施主体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平戸市（運行は交通事業者に委託） 	事業許可区分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自家用有償旅客運送 	運行態様	<ul style="list-style-type: none"> ・ 路線定期運行 	補助事業活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ フィーダー補助 	実施行程	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 31 年度：詳細検討・準備（再編事業の適用を含めた検討） ・ 平成 32 年度～：実施、点検評価・見直し
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>たひら</u>平戸駅ー平戸中部（紐差）を結ぶ新たな幹線系統の整備にあわせ、南部の準幹線的な役割を担う支線系統を整備する。 ・ 運行区間は宮の浦ー紐差とし、バス車両を利用した定期運行を基本に運行体系を検討する。 																									
対象路線	<ul style="list-style-type: none"> ・ 志々伎線 ・ 宮の浦線 																									
実施主体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通事業者 																									
実施行程	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 31 年度：詳細検討・準備（再編事業の適用を含めた検討） ・ 平成 32 年度～：実施、点検評価・見直し 																									
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>たひら</u>平戸駅ー平戸中部（紐差）を結ぶ新たな幹線系統の整備にあわせ、南部の準幹線的な役割を担う支線系統を整備する。 ・ 運行区間は宮の浦ー紐差とし、バス車両を利用した定期運行を基本に運行体系を検討する。 																									
必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該路線は南部地区住民の通学をはじめ、通院や買い物など多様な目的での移動を担う。起点の紐差バス停～経由地の平戸高校前バス停では、地域間幹線系統に接続し、公共交通ネットワークを構築する上で重要な役割を担っている。一方で市の運営だけでは路線の維持が困難であることから、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。 																									
対象路線	<ul style="list-style-type: none"> ・ 志々伎 ・ 宮の浦線 																									
実施主体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平戸市（運行は交通事業者に委託） 																									
事業許可区分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自家用有償旅客運送 																									
運行態様	<ul style="list-style-type: none"> ・ 路線定期運行 																									
補助事業活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ フィーダー補助 																									
実施行程	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 31 年度：詳細検討・準備（再編事業の適用を含めた検討） ・ 平成 32 年度～：実施、点検評価・見直し 																									